



季刊

防災ニュース

第1号

宮前区まちづくり協議会防災部会
宮前区役所地域振興課

最近「地震」に関するニュースが、 テレビ・新聞を賑わせています！

今年に入ってから、6月の岩手・宮城内陸地震、7月の岩手県北部地震と大きな地震が頻発しており、私たちも、
「いつ起こるかもしれない」地震を身近に感じざるを得ない状況となっています。

そこで、地震に備え、**「自分の身は自分で守る」**ための基本的な共通認識を今から作っておきたいと思い、季刊**「防災ニュース」**を作成し、区民の皆様に目をとおしていただけるようにしました。



もし、地震が起こったら・・・
**自分の身は、
自分で守ろう！**

なお、「季刊 防災ニュース」の発行は、4半期ごとといたします。

大地震が発生したら！

地震が発生した直後は、誰も助けてくれません。

グラッと来たら、すぐに机の下に入るなど、自分の身を守る行動を起こしましょう。

阪神・淡路大震災の犠牲者の死亡推定時刻を調べてみると、

**亡くなられた方の92%が、
15分以内に亡くなられています。**

(出典 / 兵庫県監察医調査)

原因は、83.3%の方が、建物や家具等の下敷きになって窒息死・圧死し、12.2%の方が火災で焼死しています。

火災による焼死とはいっても、ほとんどが被災した建物に閉じこめられて逃げられなかった方です。そう考えると、

**実に95%以上の方が、
建物・家具が原因で亡くなっているのです。**

(出典 / 兵庫県監察医調査)

逆に言えば、グラッと来た後にも、身動きが取れる状態が確保できていれば、命は助かる場合が多いのです。机の下に入るなり、頭巾をかぶるなどして、

まず自分の身を自分で守ってください！

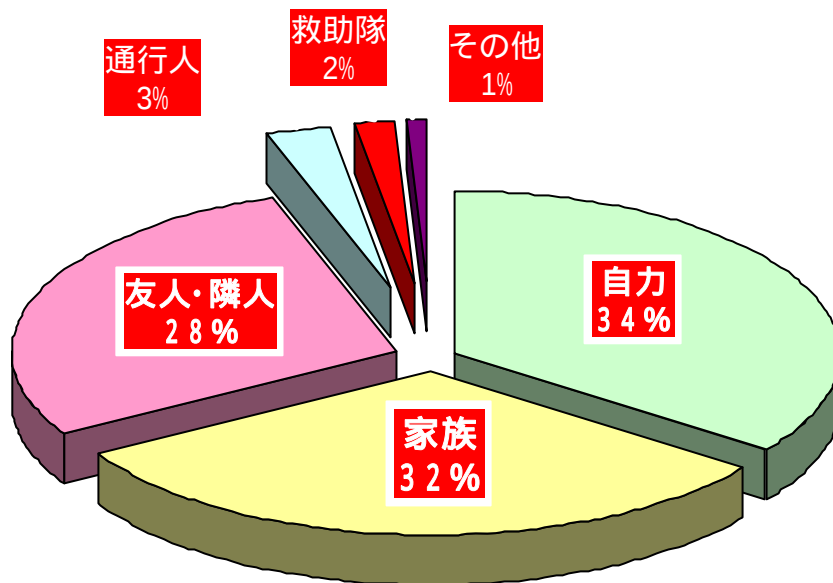
全てはそれからです！

揺れが大きいときに、無理に火を消そうとすると大やけどをすることにもなりかねません。揺れが収まってから落ち着いて火を消し、電気のスイッチを切ってください。

大地震 誰が助けてくれたか !!

阪神・淡路大震災のとき、救出、救助にあたったのは、
家族と友人・隣人が **60%** を占めています。

日頃からお付き合いのある方々に助け出されることが
多いのです。



(出典 / (社)日本火災学会「兵庫県南西地震における火災に関する報告書」)

命とプライド どっちが大事？

**プライドは必要ですが、
それだけでは災害には対応できません！！**

過去の災害では、ご近所の方々の助け合いにより、早期
に多くの方が救出されました。

早期救出は生存率を高めるキーワードです。

個々のプライド・事情はいろいろあるでしょうが、頼りになる、そして頼りにしなければならないのは

向こう三軒両隣 です。

日頃から、隣近所の方々と挨拶できるようにしておくことが必要ではないでしょうか。

手を挙げましょう！

～ 災害時要援護者避難支援制度のご案内 ～

災害時要援護者とは、災害時に自力ではスムーズな避難行動が取りにくい方のことです。そのような方の情報は、普段から地域で共有しておく必要があります。

そこで、川崎市では、平成19年12月から「災害時要援護者避難支援制度」を実施しています。

「災害時要援護者避難支援制度」とは？

災害時要援護者に相当する方が、地域への情報提供に同意をし、区役所に名簿登録の申請を行います。

区役所は地域ごとに整理した名簿を、支援組織となる町会・自治会、自主防災組織、民生委員児童委員などに共有してもらい、非常時に備えます。

災害時に人の手助けが必要と感じていても、それを望んでいることを自ら意思表示しておかなければ、他人にはわかりません。

自分の意思を明らかにすることが重要です！